

## 2. 収 納 箱 の 設 計

研究員 楠 畑 裕 也

社会構造の変化に従い、生活環境が大きく変遷してきている。人口の都市集中化とともに集団住宅の建設、交通機関の高速化、更に近代産業の発展と工業団地の造成等、社会全般の動きが人間活動を中心に組織的且つ計画的に開発され、新しい生活の場が造られつつある。このような時代の変動にそって住いの構造も必然変質せざるを得ない時期にあると考えられる。そこで表記のタイトルを研究課題にとりあげ、従来の家具のパターンにこだわらず、その用途性を追求することによって、これからのお住いに適応する新しい室内用具……卓子・椅子・棚・タンス・寝台等……をデザインすること目的とする。

### I 設計の目標

室内における衣服、小箱、小道具、器具、書類等を収納できるもので、同時に設置場所を限定されず、移輸送にも便利なものとする。

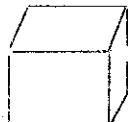
### II 設計の条件

1. 機能……用途にそって組替えできるユニット式とする。
2. 収能対象……
  - イ. 衣服類
  - ロ. 電気掃除機
  - ハ. 小箱、小道具類（薬箱、裁縫箱等）
  - ニ. カメラセット
  - ホ. 書類、その他
3. 装飾性……室内の調和をこわさない範囲とする。

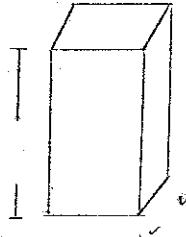
### III 設 計

#### 1. ユニット

(1) ユニットA



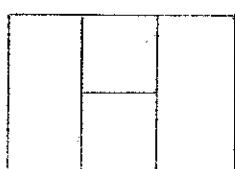
(2) ユニットB



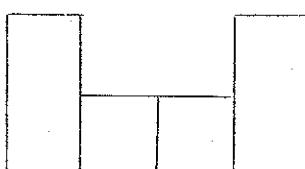
単位 = cm  
A : B = 1 : 2

#### 2. 組替えのシステム

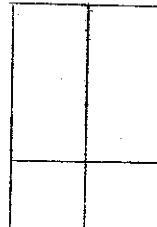
(1)



(2)

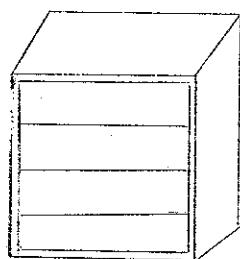


(3)

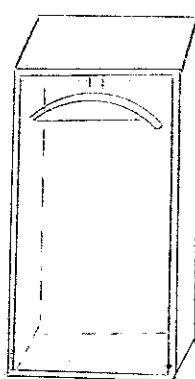


### 3. 内部構造

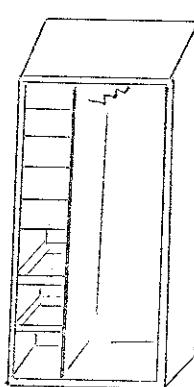
(A) ユニット A



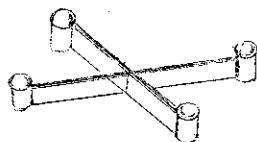
(B) ユニット B



(C) ユニット B'



### 4. 脚



左図のような脚をどのユニットにも適応できるようにして  
ユニットの数だけ用意する。

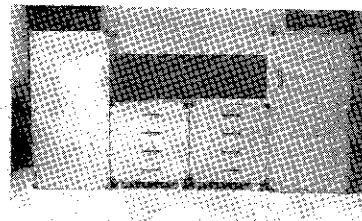
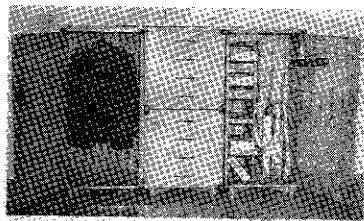
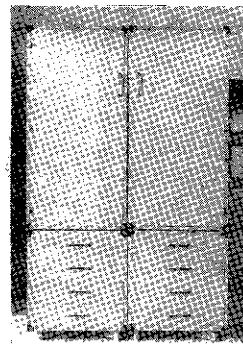
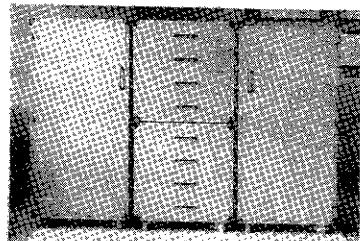
### 5. 装 飾

構造体である隅木をユニットの各コーナーに用いて装飾性を高める。

### 6. 設計図

別添

## IV 試作製品



#### ▼ 考 察

1. ユニットシステムによる組替えは試作製品にみられる通り可能であり、単独に使用することもできる。したがって室内における設置場所を限定されない。
2. 重量はユニットAが16kg, Bが15kg, B'が23kgとなり、運搬及び室内配置が一人の力で容易になる。
3. 高さ120cm, 幅60cm, 奥行45cmというサイズは、畳を基準にしている室内においては圧迫感を減じ、調和をはかり易い。
4. 和室においては、脚部を台輪にすることも可能である。
5. 内部の構造を工夫することによって、用途にそった展開を計ることができる。

